

プラスに転じた中国の鉱工業生産

ポイント① 生産の回復が進む

5月15日に発表された4月分の中国の鉱工業生産指数は、前年同月比+3.9%と3月の同-1.1%から上昇し、プラスに転じました。新型コロナウイルスの感染が拡大する前には+6%前後でしたので、通常レベルに戻ったとは言えませんが、感染拡大が概ね止まり、経済活動が再開されてきたことの効果が確認できました。

1-3月期には前年同期比-6.8%と大幅に下落した実質GDP（国内総生産）も、4-6月期にはかなり持ち直すことが期待できます。

ポイント② 小売売上の回復に遅れ

需要側に目を転じると、固定資産投資は1～4月の累計値で前年同期比-10.3%と1～3月の-16.1%からマイナス幅を縮小、小売売上高は4月には前年同月比-7.5%と3月の-15.8%からマイナス幅を縮小させたものの、依然としてマイナス圏に留まりました。感染再拡大を防ぐために、人々が他の人との接触を極力減らすことを求められることから、必需品以外の買い物や外食などの回復が遅れているようです。

ポイント③ 新たな成長の姿の模索

こうした点では中長期的に見ても、経済が元の姿には戻らないことが伺われます。生産や投資も新しい経済に適応していかなければ、回復を持続できないと考えられます。

新たな生活様式や経済成長の姿を模索することは、中国に限らず、世界全体でも必要になるでしょう。感染拡大が他国より早期に収まった中国で、政府、企業、個々の人々がどのような行動を取るかが注目されます。

図1：中国の鉱工業生産指数と実質GDP

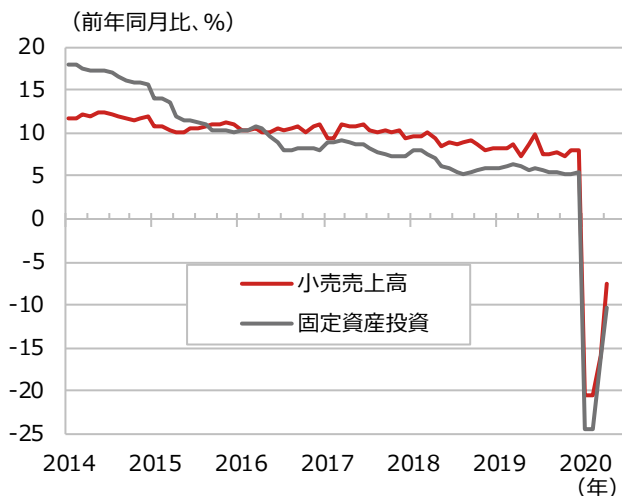
期間：鉱工業生産 2006年1月～2020年4月、月次

実質GDP：2006年1-3月期～2020年1-3月期、四半期



図2：中国の小売売上高と固定資産投資

期間：2014年1月～2020年4月、月次



重要
イベント

5月29日 日本鉱工業生産指数、小売売上高、失業率（4月）
5月29日 米国個人所得・消費支出、個人消費支出デフレーター（4月）

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆しない保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。